

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第30週の発生動向

全数報告の感染症 (30週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 8 例。3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 6 例。
4 類感染症：報告なし。5 類感染症：播種性クリプトコックス症 1 例、破傷風 1 例、百日咳 3 例。

疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類 結核	宮崎市	50 歳代	女	無症状病原体保有者	—
		50 歳代	男	肺結核	咳、痰、発熱
		70 歳代	男	疑似症患者	発熱、呼吸困難
		70 歳代	女	肺結核	咳
		80 歳代	女	肺結核	痰、発熱
	都城	60 歳代	男	肺結核	呼吸困難
	延岡	20 歳代	女	無症状病原体保有者	—
高千穂	60 歳代	男	無症状病原体保有者	—	
3類 腸管出血性大腸菌感染症	都城	0~4歳	男	—	水様性下痢、O26(VT1)
		0~4歳	女	—	血便、O26(VT型不明)
		0~4歳	男	—	腹痛、血便、嘔吐、発熱、O111(VT型不明)
		0~4歳	男	—	水様性下痢、血便、発熱、O26(VT型不明)
		0~4歳	男	—	水様性下痢、O26(VT1)
		40 歳代	女	—	腹痛、発熱、軟便、O26(VT1)
播種性クリプトコックス症	宮崎市	70 歳代	女	—	発熱、意識障害、呼吸器症状、胸部異常陰影、真菌血症
破傷風	宮崎市	70 歳代	男	—	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、呼吸困難(痙攣性)、易興奮性、ワクチン接種歴：不明
5類 百日咳	延岡	10 歳代	男	—	持続する咳
	日南	10 歳代	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み
	高鍋	50 歳代	男	—	持続する咳

定点把握の対象となる 5 類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 704 人(定点当たり 22.4)で、前週比 97%とほぼ横ばいであった。なお、前週に比べ増加した主な疾患はヘルパンギーナで、減少した主な疾患は手足口病である。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【RSウイルス感染症】

報告数は 70 人(2.0)で、前週比 99%とほぼ横ばいであり、例年同時期の定点当たり平均値*(0.54)の約 3.7 倍である。延岡(6.0)、高鍋(3.3)、中央(3.0)保健所からの報告が多く、年齢群別では 6 ヶ月~1 歳が全体の約 8 割を占めている。

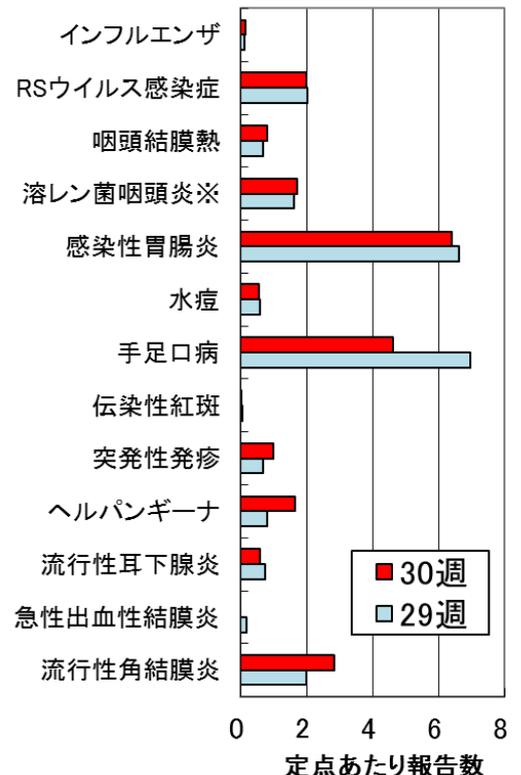
【手足口病】

報告数は 162 人(4.6)で、前週比 66%と減少し、例年同時期の定点当たり平均値*(7.4)の約 0.6 倍である。小林(11.3)、高千穂(9.0)、日向(7.5)保健所からの報告が多く、年齢群別では 1~4 歳が全体の約 8 割を占めている。

【ヘルパンギーナ】

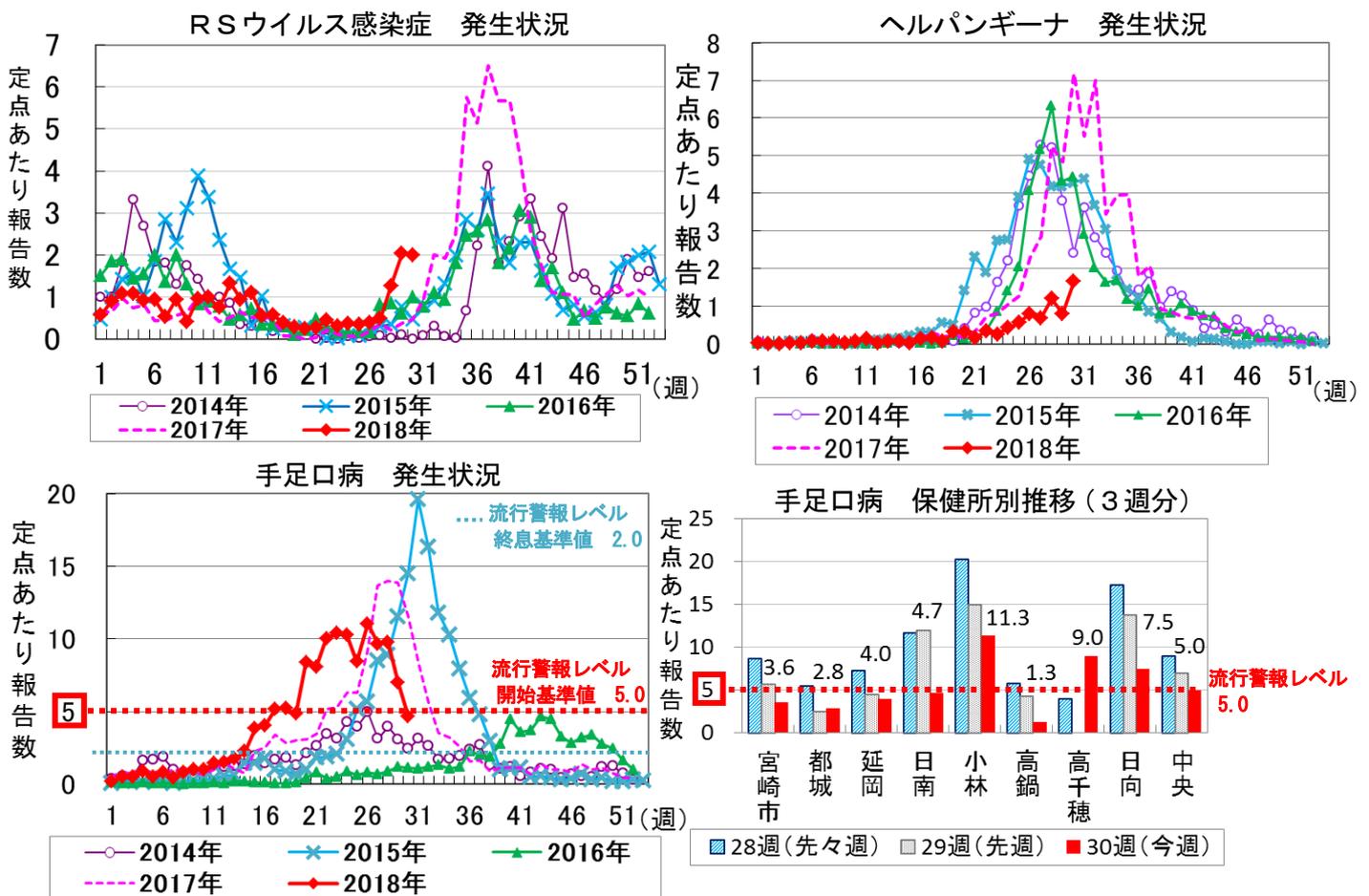
報告数は 58 人(1.7)で、前週比 207%と増加したが、例年同時期の定点当たり平均値*(4.1)の約 0.4 倍である。日南(5.0)、延岡(4.0)、小林(3.0)保健所からの報告が多く、年齢群別では 1~3 歳が全体の約 7 割を占めている。

《前週との比較》



* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



★基幹定点からの報告★
報告なし。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	なし
日南	流行性耳下腺炎(6.7)
小林	手足口病(11.3)
高鍋	なし
高千穂	手足口病(9.0)
日向	手足口病(7.5)
中央	手足口病(5.0)

流行警報レベル開始基準値

- ・手足口病(5.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成30年7月30日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
<i>Salmonella</i> Schwarzengrund (O4:d:1,7)	10歳代	女	2018.07.07	急性膀胱炎	尿	2018.07.19
<i>Salmonella</i> Thompson (O7:k:1,5)	70歳代	男	2018.07.07	発熱(37.4℃)、水様性下痢	便	2018.07.19
EHEC (O157:H7 VT1,2)	0~4歳	女	不明	胃腸炎、下痢、血便、腹痛	便	2018.07.20
<i>Salmonella</i> Thompson (O7:k:1,5)	5~9歳	女	2018.07.17		便	2018.07.23
<i>Salmonella</i> Thompson (O7:k:1,5)	0~4歳	女	2018.07.17		便	2018.07.23
<i>Salmonella</i> Thompson (O7:k:1,5)	10歳代	女	2018.07.17		便	2018.07.23
<i>Salmonella</i> Thompson (O7:k:1,5)	5~9歳	女	2018.07.17		便	2018.07.23
<i>Salmonella</i> Haelsingborg (O7:m,p,t:-)	30歳代	女	2018.07.17		便	2018.07.24
<i>Salmonella</i> Thompson (O7:k:1,5)	10歳代	女	2018.07.17		便	2018.07.23
<i>Salmonella</i> Miyazaki (O9:l,z13:1,7)	10歳代	男	2018.07.17		便	2018.07.25
<i>Salmonella</i> Thompson (O7:k:1,5)	0~4歳	女	2018.07.19		便	2018.07.24
<i>Salmonella</i> Thompson (O7:k:1,5)	0~4歳	男	2018.07.20		便	2018.07.25
<i>Salmonella</i> Bareilly (O7:y:1,5)	40歳代	女	2018.07.20		便	2018.07.27

〇0～70 歳代の 12 名からサルモネラ属菌（5 種類の血清型）が検出された。サルモネラ属菌は食中毒の起病菌として知られており、食品だけでなく鳥類・哺乳類・爬虫類・両棲類や下水・河川などにも幅広く存在している。したがって、食中毒を予防するためには食品を扱う際の手洗い・消毒が重要となる。同様にペット等の動物に触れた後の手洗い・消毒も感染の予防に有効である。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
アデノウイルス2型	0～4歳	男	2018.05.03	麻疹疑い、39.0℃、鼻水	咽頭ぬぐい液	2018.07.18
インフルエンザウイルスAH3	5～9歳	男	2018.05.02	インフルエンザA型、38.8℃、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2018.07.23
インフルエンザウイルスAH3	0～4歳	男	2018.07.02	インフルエンザA型、40.0℃	咽頭ぬぐい液	2018.07.23
インフルエンザウイルスAH1pdm09	0～4歳	男	2018.05.07	インフルエンザA型、39.1℃、下気道炎(気管支炎)	咽頭ぬぐい液	2018.07.23
コクサッキーウイルスB3型	0～4歳	女	2018.06.24	髄膜炎、38.0℃	便 咽頭ぬぐい液 髄液	2018.07.26

〇髄膜炎と診断された乳児の便、咽頭ぬぐい液、髄液からコクサッキーウイルス B3 型が分離された。全国において、2018 年に無菌性髄膜炎患者から分離・検出されたウイルスをみると、エンテロウイルス 71 型が最も多く、次いでエコーウイルス 4 型、7 型、30 型とエコーウイルスの占める割合が高くなっており、コクサッキーウイルス B 群は、2018 年 7 月 31 日現在まで報告されていない。無菌性髄膜炎は夏季に流行がみられ、流行するウイルスも様々であることから、今後の動向に注意する必要がある。

🇯🇵 全国 2018 年第 29 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 29 週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	305 例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	126 例	パラチフス	1 例		
4類感染症	E 型肝炎	7 例	A 型肝炎	18 例	コクシジオイデス症	1 例
	重症熱性血小板減少症候群	4 例	つつが虫病	1 例	デング熱	3 例
	日本紅斑熱	5 例	ライム病	1 例	レジオネラ症	90 例
5類感染症	アメーバ赤痢	10 例	ウイルス性肝炎	7 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	31 例
	急性脳炎	11 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4 例
	後天性免疫不全症候群	6 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	7 例	侵襲性髄膜炎菌感染症	2 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	18 例	水痘（入院例）	4 例	梅毒	70 例
	播種性クリプトコックス症	3 例	破傷風	3 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例
	百日咳	135 例	風しん	4 例	麻しん	1 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 87%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はRSウイルス感染症とヘルパンギーナで、減少した主な疾患は咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び感染性胃腸炎である。

RSウイルス感染症の報告数は 2,388 人(0.76)で前週比 109%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値*(0.29)の約 2.6 倍である。沖縄県(3.2)、宮崎県(2.0)、徳島県(1.9)、福岡県(1.8)からの報告が多く、年齢群別では 2 歳以下が全体の約 9 割を占めている。

ヘルパンギーナの報告数は 7,833 人(2.5)で前週比 103%とほぼ横ばいであり、例年同時期の定点当たり平均値*(3.3)の約 0.8 倍である。山形県(8.3)、静岡県(7.5)、新潟県(6.6)からの報告が多く、年齢群別では 1～4 歳が全体の約 7 割を占めている。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2018年 第30週(07月23日～07月29日)

疾病名		第29週	第30週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	6	9	1	5			3				
	定点あたり	0.10	0.16	0.07	0.50	0.00	0.00	0.60	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	71	70	16	4	24		2	13		8	3
	定点あたり	2.03	2.00	1.78	0.67	6.00	0.00	0.67	3.25	0.00	2.00	3.00
咽頭結膜熱	報告数	24	28	8		11	4		5			
	定点あたり	0.69	0.80	0.89	0.00	2.75	1.33	0.00	1.25	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	57	60	24	1	10	6	3	3		10	3
	定点あたり	1.63	1.71	2.67	0.17	2.50	2.00	1.00	0.75	0.00	2.50	3.00
感染性胃腸炎	報告数	232	224	28	39	10	35	44	9	2	44	13
	定点あたり	6.63	6.40	3.11	6.50	2.50	11.67	14.67	2.25	2.00	11.00	13.00
水痘	報告数	21	19	12		2	1	2	1			1
	定点あたり	0.60	0.54	1.33	0.00	0.50	0.33	0.67	0.25	0.00	0.00	1.00
手足口病	報告数	244	162	32	17	16	14	34	5	9	30	5
	定点あたり	6.97	4.63	3.56	2.83	4.00	4.67	11.33	1.25	9.00	7.50	5.00
伝染性紅斑	報告数	2	1						1			
	定点あたり	0.06	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	24	35	8	6	7	3	6	2		3	
	定点あたり	0.69	1.00	0.89	1.00	1.75	1.00	2.00	0.50	0.00	0.75	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	28	58	8	2	16	15	9	4		3	1
	定点あたり	0.80	1.66	0.89	0.33	4.00	5.00	3.00	1.00	0.00	0.75	1.00
流行性耳下腺炎	報告数	26	21			1	20					
	定点あたり	0.74	0.60	0.00	0.00	0.25	6.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜 炎	報告数	1										
	定点あたり	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	12	17	12		5						
	定点あたり	2.00	2.83	4.00	0.00	5.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:58、小児科定点:35(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

全数把握対象疾患累積報告数(2018年第1週～30週)

2類感染症	結核	106例(8)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	17例(6)				
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	22例	重症熱性血小板減少症候群	8例
	つつが虫病	1例	日本紅斑熱	6例	レジオネラ症	5例
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	4例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	7例
	急性脳炎	6例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	4例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	19例
	水痘(入院例)	1例	梅毒	2例	播種性クリプトコックス症	4例(1)
	破傷風	3例(1)	百日咳	194例(3)	風しん	1例

()内は今週届出分、再掲